

REBOK DX編
パターンNo.6
素早く作り，ビジネス価値を検証する

2021年5月

JISA エンジニアリング部会 要求工学グループ

素早く作り,ビジネス価値を検証する (1/7)

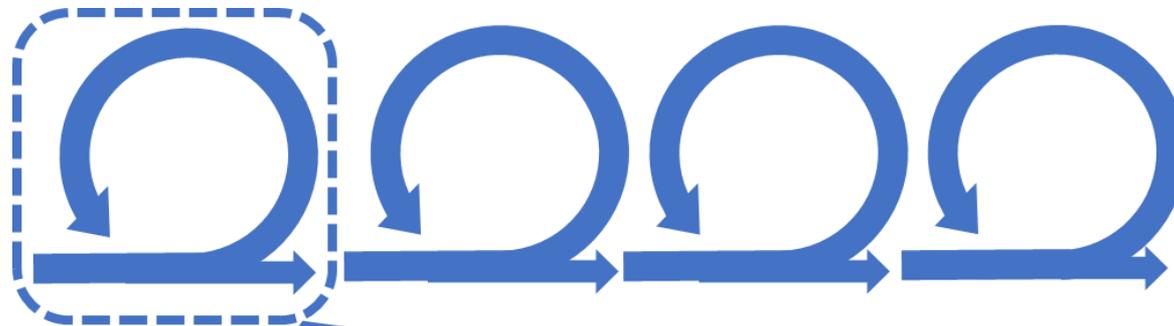
- **【タイトル】** 素早く作り,ビジネス価値を検証する
- **【状況】** 要求の具体化が難しいながらもデジタルサービスの開発を求められている
- **【問題】** 開発の進行中に発生する要求の変更や追加へ柔軟に対応することができない。また,どの要求の変更や追加を,採用すべきかわかっていない。
- **【問題が発生する理由】** 近年,不確実性が高い世の中になってきており,誰も正解が分かっていない。そのため要求の変更,追加が高頻度で発生する。だが要求を早期に凍結することを前提とするウォーターフォール型の開発では,要求の変更・追加を考慮しておらず一度決めたことから変えることが難しい。また開発中に出てきた要求の選択基準がないため,どの要求仕様を採用したらよいのかわからない。要求工学知識体系 REBOK v1.0では,ソフトウェアプロセスモデルの一種としてアジャイルを紹介しているが,具体的にどのような状況で利用できるのかは述べられていない。
- **【解決策】** 価値の検証結果に基づき要求定義を行う。アジャイルにより短期間での開発とリリースを繰り返し,具体的なフィードバックを得ながら要求を具体化する。

素早く作り,ビジネス価値を検証する (2/7)

- 【適用例】

- 考案したデジタルサービスの価値の検証を目的にアジャイルを適用し,価値の検証結果に基づいた要求の具体化を行う。
- アジャイルの手法としてスクラム[1]を利用する。スクラムのスプリントというプラクティスを適用することで最長でも4週間毎に製品/サービスをリリースし価値を検証ができる状態になる。

- スプリントのイメージ

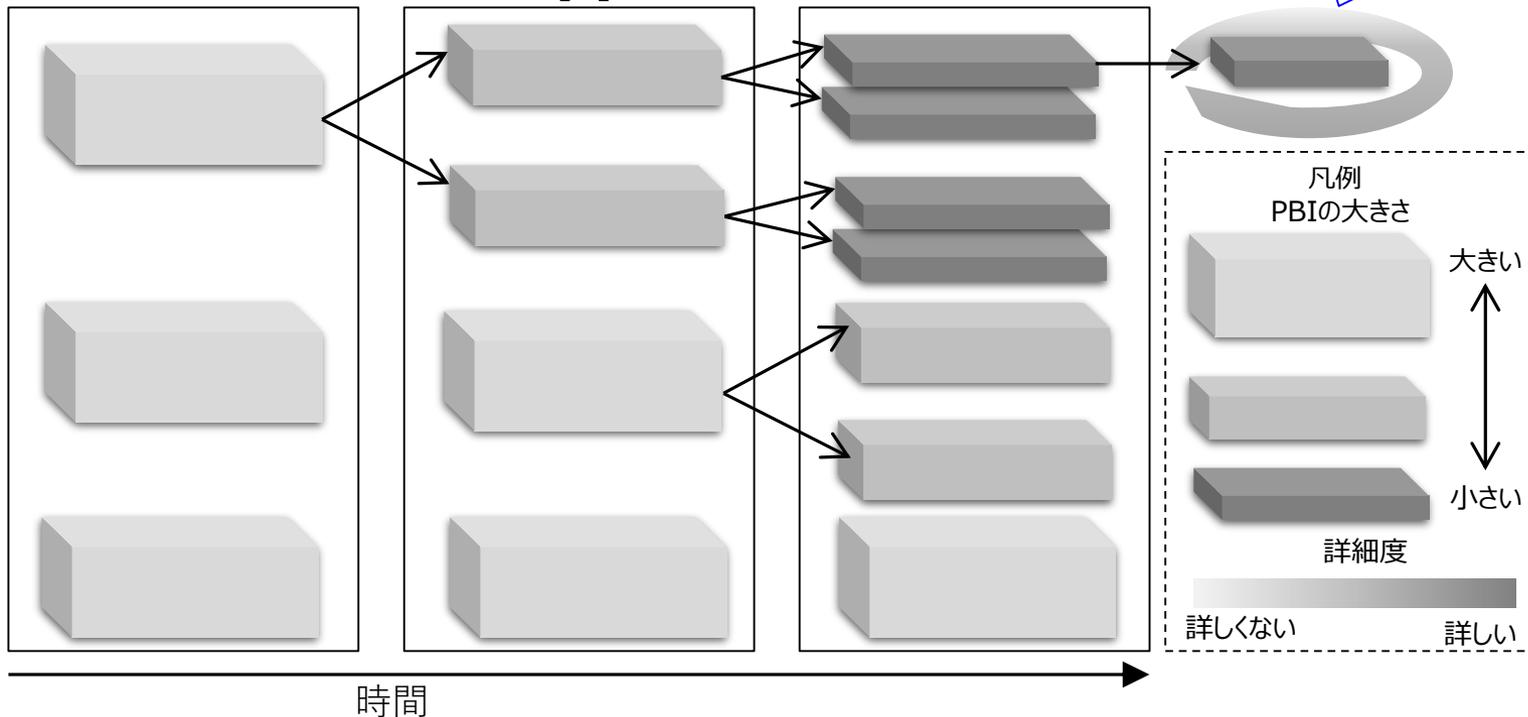


- スプリントと呼ばれる開発のサイクルを繰り返します。
- スプリントの中で要件定義からテストまで実施します。
- スプリントの期間は1週間から4週間です。

素早く作り,ビジネス価値を検証する (3/7)

- 事前に要求を詳細化せずプロダクトバックログアイテム (PBI) として扱う.

■時系列に並べたプロダクトバックログ[2]



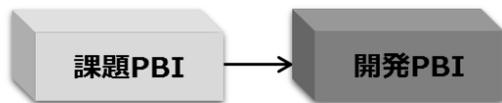
素早く作り,ビジネス価値を検証する (4/7)

- PBIの状態を開発PBI,課題PBIで管理する[3].
 - 受入基準が具体化できるまたは作業量が見積もれる場合を開発PBIとする
 - 受入基準の具体化に検討または調査が必要となる場合は,課題PBIとする

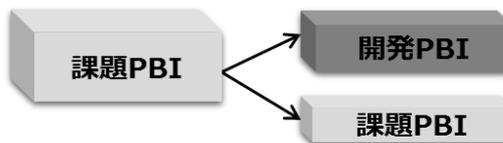
課題PBIから開発PBIへの状態変化のパターンを活用することで,PBIの詳細化を効率化

■ 課題PBIから開発PBIへの状態変化のパターン

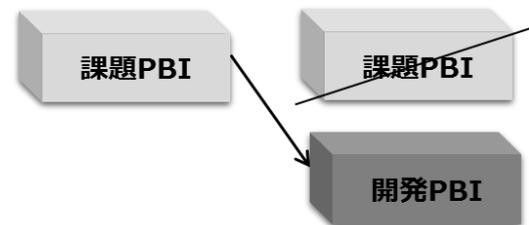
1)変更
課題PBIから開発PBIに種別を変更する



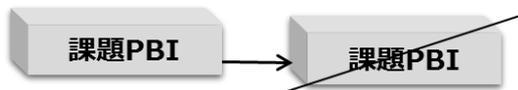
2)分割
課題PBIの一部を開発PBIとして切り出す



3) 反映
課題PBIを解決し、結果を既存の開発PBIへ反映する



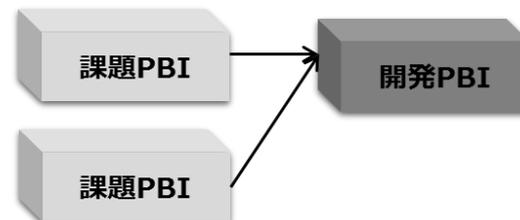
4)消滅
課題PBIを解決し、対象外とする



5)追加
開発PBIを新規に追加する



6)統合
複数の課題PBIを解決し、開発PBIに統合する

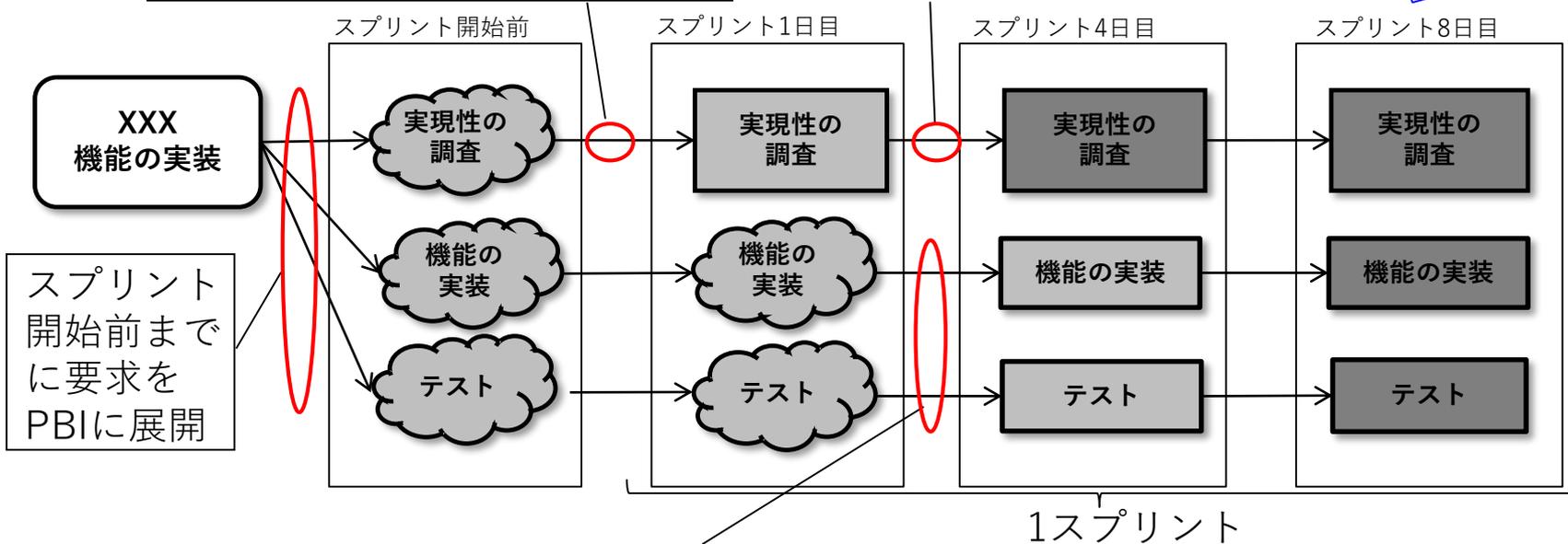


素早く作り, ビジネス価値を検証する (5/7)

1スプリントの中で課題PBIの詳細化を含めて開発を実施した

スプリント開始前に課題の検討を行い課題PBIを開発PBIに変更

1日目から4日目までに開発PBIを実装



実現性の調査の結果を踏まえて検討を実施. 具体的な解を決定し開発PBIに変更



素早く作り,ビジネス価値を検証する (6/7)

- 【結果（期待効果）】
 - 価値の検証の結果に基づいた要求定義を行うことで,ユーザが求める機能にスコープを当てることができる.
 - PBIの状態を課題PBI／開発PBIで可視化することで,検討が必要な要求を明確化ができる.
 - 課題PBIから開発PBIへの状態変化のパターンを活用することで,PBIの詳細化を効率化できる.
 - 従来型の要求定義における,知情意の観点では,「知」が深堀され,「情」の方向に強化される.

素早く作り,ビジネス価値を検証する (7/7)

- 【参考文献】

- [1] スクラムガイド,
<https://www.scrumguides.org/docs/scrumguide/v2020/2020-Scrum-Guide-Japanese.pdf>
- [2] Kenneth S. Rubin; エssenシャルスクラム:アジャイル開発に関わるすべての人のための完全攻略ガイド, 翔泳社, 2013. (岡崎裕二, 角正典, 高木正弘, 数智右桂 訳)
- [3] 北川 貴之; アジャイル開発における要求管理手法と適用評価, REBOK-DX Vol.2 デジタルトランスフォーメーション(DX)の技術と活用, 一般社団法人情報サービス産業協会 先進技術実践委員会 要求工学実践部会, 2019.